



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

■発行：令和3年12月  
■発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園  
■発行者：理事長 中尾清一郎  
■編集：法人広報誌編集委員

# 学園タイムス

2021-12 Vol. **32**

社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

## 「コスモス」

ふらっと立ち寄った金立コスモス園では、園内一面にコスモスが咲き誇っていました。秋の澄んだ空気に、色鮮やかなコスモス、奥には普段から見慣れている金立山がくっきり見え、毎年恒例なはずなのにつつい写真を撮りたくなるような景色でした。また来年も同じ場所から写真を撮ってみたいなあと思います。



- 巻頭言…2
- REPORT…3
- 事業所 TOPICS…4～5
- タイムス特集…6
- 学園 FOCUS…7
- 常務随想 リレーコラム…8
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…8

<b>法人事務局</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	<b>こども発達医療センター</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	<b>オークス</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	<b>かんざき清流苑</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
<b>在宅サポートセンターかんざき清流苑</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	<b>からつ医療福祉センター</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	<b>からつ医療福祉センター-在宅事業部</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	<b>からつ医療福祉センター-好学舎</b> 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
<b>糸島子どもとおとなのクリニック</b> 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	<b>かんざき日の隈寮</b> 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	<b>佐賀向陽園</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	<b>居宅介護支援センターわいわい</b> 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252



# 社会福祉法人への期待

社会福祉法人佐賀整肢学園  
監事

森 木 久

本年4月に社会福祉法人佐賀整肢学園の監事に就任しました、森木久と申します。

私は、佐賀県職員として県庁や県の現地機関で37年間勤務し、県庁退職後は、医療関係の法人等の勤務を経て、現在にいらっています。

県職員時代は、行政職として様々な分野の仕事をさせていただきましたが、その中で福祉・医療分野の行政事務に携わった期間を通算すると、県在職期間の概ね三分の一くらいを占めており、1980年代頃からの社会福祉制度改革に伴う福祉行政の変遷についても部分的にですが経験をすることができました。

さて、社会福祉法人制度は、1951年に制定された社会福祉事業法（現在の社会福祉法）により創設され、国、地方自治体とともに長年にわたりわが国の社会福祉事業の中心的な役割を担ってきた公益性の高い法人です。

わが国の社会福祉制度は1960年代半ばに「福祉六法体制」の成立により確立していますが、その当時の制度的枠組みは、措置制度を中核として、施設サービス中心のサービス提供という中で、当時の社会福祉法人の役割は、行政の判断でサービスの対象者と内容を決定し、それに従い事業を実施する仕組み、すなわち「措置制度」における事業実施主体として、施設運営が中心的なものでした。

その後、高度経済成長期を経て社会構造が変化し、少子高齢化の急速な進展や、疾病構造の変化、ノーマライゼーションの理念への関心の深まり等により、社会福祉基礎構造改革という、社会福祉の制度的枠組みを再編成する議論が進展し、2000年には高齢者福祉分野で介護保険制度がスタートし、障害者福祉分野でも2003年度に支援費制度、2006年には障害者自立支援法が施行される等により、サービスの利用の仕組みが措置制度から契約制度へと変わりました。

また、地域で普通に暮らしたいというニーズに応えるため、サービス内容も、居宅サービスの充実や地域密着、小規模・多機能型の新しい施設の整備が求められるようになりました。

これに伴って、在宅福祉サービスを中心に社会福祉法人以外の株式会社やNPO法人等の多様な事業者が参入することができるようになるとともに、利用者自らが必要なサービスを選択し、利用できるようになりました。

このような社会福祉法人を取り巻く状況の変化の中で、社会福祉法人に求められる役割は、社会福祉社事業の中心的な担い手であるというだけでなく、他の事業主体では対応できないような様々な社会福祉ニーズに対応するとともに地域福祉への貢献も期待されることとなりました。

社会福祉法人は、元々高い公益性と非営利性を備えた法人ですが、このような役割をはたしていくためにも、これまで以上に公益性や透明性の高い事業運営が求められるとともに、社会福祉法人がもともと抱えていた課題を解消することを目的として、制度改革が検討され、平成28年3月31日に改正社会福祉法が公布されています。

その内容は、経営組織のガバナンスの強化として、理事・理事長に対するけん制機能を強化し、財務会計に係るチェック体制を整備する仕組みが構築され、また、評議員会が必置機関となり、理事等の選任・解任等重要事項を決議する議決機関となっています。

また、社会福祉法人の事業運営の透明性の向上するため、計算書類等の公表について法律上明記されたほか、財務規律を強化するしくみの構築や地域における公益的な取り組みを実施する責務などが定められています。

福祉事業に多様な事業者が参入できるようになりましたが、社会福祉法人がこれらの制度改革に沿って確実に法人運営を行うことにより、今後とも、社会福祉事業にかかる福祉サービスの供給確保の中心的な役割を果たしていくことが、住民の福祉の向上につながるものと期待しています。

社会福祉法人佐賀整肢学園は、昭和35年の設立以来、常に時代のニーズや地域社会の要望に対応して多彩な医療・福祉サービスの提供に先進的に取り組まれ、現在では、17の社会福祉事業と5つの公益事業を実施されております。

このような社会福祉法人制度の大きな改正からそれほど時間がたっていないこの時期に、当法人の監事を務めさせていただくことになり身の引き締まる思いです。

法人の経営が法律に沿って行われ、提供するサービスが利用者のニーズに対応し、財務上も安定した経営を維持できるよう、これまでの経験も生かしながら、監事の立場から、社会福祉法人佐賀整肢学園の今後の事業運営に、微力ですがお役にたてればと考えているところです。

## 研 究 会

### 療育研究会

10月20日にこどもセンター職員による研究発表を行う療育研究会を開催し、看護、生活支援、リハビリ、在宅支援など各部門より12演題を発表しました。

発表の一部を挙げると、「シャルコーマリートゥース児に対する整形外科手術後の理学療法経過」、「ASD 児への診断告知における支援者同士の繋がり の大切さ～心理療法士の視点から～」、「オープンシャワーの動画付きマニュアルの作成と評価～ハミンググッドを使用した創外固定器のオープンシャワー～」、「余暇時間の活用と心の満足度」、「生活介護における医療ケア利用者に対する送迎サービスの状況」など、多岐に渡った演題となっています。

例年対面で直接発表していましたが、コロナ禍に伴い昨年度は事前に録画したものを DVD で各部署に配布、今年度は LIVE 感を重視しオンライン中継（Zoom）で実施しました。

初めての試みでもあり、教育委員会メンバーを中心に準備を進めて当日を迎えました。音声トラブルなどで冷や汗をかく場面もありましたが、視聴者アンケートの集計では、「オンラインでの開催が非常に参加視聴しやすい」、「今後感染症のリスクが軽減されても、対面と併行してオンライン中継を継続して欲



演者待機中の様子

しい」、というものが多くありました。

視聴者数は百数十名と例年を大きく上回るもので、参加しやすさが現れる結果となっています。

次回に向けては、チャットでの質疑応答などを活かして、より満足度を高め、充実した内容にできるよう、担当スタッフ一同取り組んでいきます。

（こども発達医療センター 在宅支援課 課長 竹下 敬二）



演者の皆さん

## 留 学 生

### 外国人留学生

佐賀整肢学園では、令和2年度より外国人留学生の就業を受け入れています。令和元年11月にミャンマーにてマッチング面接を行い、からつ医療福祉センターで2名の留学生を受け入れることが決まりました。当初は令和2年の4月に来日し、学校に通いながら施設で就業する予定でしたが、コロナ禍による入国制限などがあり、そのうち1名がようやく令和2年12月より入国することができました。令和3年度についてはオンラインでのマッチング面接を行い、令和3年10月1日現在、法人内の4施設にてミャンマーより1名、ネパールより8名の留学生が就業しています。令和4年度については、コロナ禍の影響で未だに入国できていない3名に加え、更に新規に10名の留学生を受け入れることとなります。

基本的に日中は学校に通っていますので、勤務は必然的に土日や平日の夜の時間となります。特にからつ医療福祉センターは学校から遠く（車で1時間半）、交通の便も悪いことから、朝夕の学校までの送迎、職場と職員寮間の送迎が必要となり、対応に苦慮しているところです。また、コロナ禍の影響で、学校の授業がオンラインになったり対面になったりと頻繁に変更になることから、送迎スケジュール



留学生第1号のウーさん（中央）

ルに影響し、場合によっては1日4回送迎に出ることもあります。

また、職員として雇用していることから

一般職員と同じ労働条件を適用する必要があり、週の労働時間の設定や年休の付与など、各種事務手続きも同様に行います。しかしながら平日と土日、そして長期休み期間では労働時間が変則的に変わることから、週の労働時間の設定や契約書の記載内容など、労働基準監督署に相談しながら進めているところです。

令和3年度末をもって1名の学生が短大を卒業し、令和4年度からは正規職員として雇用することになります。言葉の壁、文化の違いのある外国人の雇用については、いろいろな面で受け入れる側の困難さもあります。外国人雇用のメリット・デメリットについては賛否ありますが、人手不足解消の手段としてスポットがあたるのではなく、地域の中での魅力ある法人であることを目指し、それによって人材を確保し、社会福祉に寄与していくことこそが継続して法人に求められると考えます。

（からつ医療福祉センター 総務課 課長 田中邦典）

近年、オークスでは利用者の方々にとって安楽であることはもちろん職員にとっても負担の少ない介護を目指し、介護ロボットの導入、業務のICT化を積極的に行っています。その中で移乗サポートロボット Hug(ハグ) を8月に導入しました。利用者の方々からは使い勝手が良いとの声が多く、複数の方が安心して利用する姿を見て「自分も試しに使ってみたい。」と希望される方が出てくるほどです。職員にとっても身体的負担の軽減、一人介助が可能になること、面倒なセッティングが必要ないことなどから業務の効率化ができました。



このことから「令和3年度佐賀県障害福祉分野におけるロボット等導入支援事業」の補助金を受け、10月にはさらに2台を在宅サポートセンター、グループホームに導入予定です。

また、今回のロボットの導入が効果を上げていることにより支援を行う職員のロボットやICT導入に対する不安が軽減し、業務改善に前向きになるという意識の変化もあったように感じています。業務の効率化や身体的な負担の軽減を進め、利用者支援の充実、職員の働きやすさの拡充に繋がっていきたいと思います。  
(在宅サービス課 副係長 内田 剛志)



8月13日夜間から15日朝にかけて、大雨特別警報による水害避難でかんざき清流苑入所者と地域住民の避難を受け入れました。数日前から佐賀県を含む九州地区に大雨警報が出ており、避難者受け入れ時のマニュアルの確認や対策等を事前に計画することができました。

これまで避難受け入れ場所を3階としていましたが、コロナウイルス感染者用の想定隔離場所を3階の半分(東側)としていたため、今回は2階食堂と個室等をかんざき清流苑入所者、3階西側を地域住民の避難場所としました。当施設利用者の方々の食事につ

いては、厨房で使い捨ての弁当容器に詰めて各居室に配布する形をとりました。利用者の方々は、「清流苑からお客さんがたくさん来ると。ちゃんとしかんばね。」と皆さん緊張感を持ちながらも落ち着いた様子で過ごされていました。配薬や食事見守り等普段と違う状況の中での生活支援でしたが、何事もなく無事に両施設の利用者の方々と地域の方々の安全を守ることができました。引き続き地域災害避難場所として、日々災害時に想定できることを話し合い、マニュアル作成やかんざき清流苑との連携強化、地域への呼びかけ等今後に対応し、利用者の方々を含めた地域の安全を守っていきたいです。  
(入所サービス課 主任 木戸 美恵)



9月1日は「防災の日」に制定されています。毎年この時期に合わせ、非常事態の発生により給食提供が不可能になった場合を想定した、非常食の提供訓練をおこなっています。今年は、9月1日から3日の昼食時に「非常食を食べよう会」を実施しました。これまで非常食に携わった経験の少ない新規採用職員をはじめとした病棟職員と一緒に、備蓄場所や非常食の取り出し方を確認しました。倉庫から取り出した非常食は各病棟へ運び、名簿と照らし合わせながら食事の準備をおこないました。利用者の皆さんには、いつもとは違った雰囲気の中、缶詰やレトルト食品などの非常食を食べていただきました。災害発生直

後はライフラインが確保できない可能性も高いため、準備に手間のかからない食品を中心に、計5日分(15回食)備蓄しています。

近年は甚大な被害をもたらす大雨や台風が増えてきており、過去のものとは比較にならない規模の災害に見舞われるケースも想定しておく必要があります。激甚化する災害にどう対応するか、今後も議論は尽きませんが、できることならば、非常食を使わなくてよい平穏な日々が続くことを切に願うばかりです。  
(医療課 副主任 下平 翔太)



# 事業所 TOPICS

(8月～10月)

## デイサービス敬老会

9月

かんざき清流苑



毎年恒例のデイサービス敬老会を9月14日～16日の3日間で行いました。今年は感染対策のためマスクやパーテーション等を使用し、敬老会を開催しました。コロナ禍でボランティアの受け入れが中止となり、普段の外出ができなかったり、遠方のご家族になかなか会えない日々を過ごされたりしている利用者の皆さんに楽しんでいただけたらと、職員もいつも以上に力が入りました。職員による桃太郎の寸劇、サザエさんのダンス、利用者の方のカラオケ披露、書道と歌のコラボ、利用者参加型のイリュージョンなど盛り沢山の敬老会となりました。

毎年、敬老会で歌を披露される102歳の利用者の方がいらっしゃいます。今年も、元気な歌声で、昔から地域でよく歌われていた歌を披露してくださいました。その力強い歌声を聴くことができたことは職員一同大変感慨深い気持ちでした。

敬老会を通して、利用者の皆さんの生き生きとされている表情、そして弾けるような笑顔をたくさん見ることができ、職員は仕事への活力をいただきました。これからも、より多くの笑顔を引き出して、楽しい時間を利用者の皆さんと共有できるようにしていきたいと思えます。来年こそはマスクなしで大きな声で利用者の皆さんと大笑いできることを願います。

(在宅サービス課 副主任 森園 佳子)

## お菓子の寄贈に笑顔

10月

からつ医療福祉センター



この度、からつ医療福祉センターまつぼっくり教室に、明治グループのお菓子と飲み物の寄贈がありました。この活動は、明治ホールディングスの株主様のご意志により、株主優待品を受け取る代わりに、同等品を福祉団体などへ寄贈するものです。全国の障害児活動を行っている団体や、自然災害の被災地支援を行っている団体が対象とされており、今回からつ医療福祉センターまつぼっくり教室が推薦されました。

10月12日にお菓子と飲み物(明治ミルクチョコレート・プッカチョコレート・マーブルジャンボリッチストロベリーチョコサンド 各1ケース・アンパンマンドリンク 1箱2ケース梱包)4～5万円程が寄贈されました。子どもたちは沢山のお菓子を見て、「すごい!早く食べたい」と嬉しそうな笑顔で大興奮。オンラインでの取材では、明治ホールディングスの方に、お礼のパネルと写真を見ていただき、子どもたちからの「ありがとう」をお伝えしました。

ご賛同いただきました株主の皆様のお気持ちに、心より感謝申し上げます。

(児童センター管理部 副部長 小崎 久美子)



## 開園祭・10周年記念祭

10月

佐賀向陽園・わいわい



10月21日に、新型コロナウイルスの感染防止を考慮しながら佐賀向陽園開園祭・わいわい10周年記念祭を開催致しました。コロナ禍において行事の中止や行事縮小が続く中で、今回利用者の皆さんが楽しめる「お祭り感」を出した行事を、リモート形式で行いました。利用者の方は、事前に張り出したチラシを見られ、「お祭りがあるとやろ?いつかにゃー。楽しみかない」と笑顔で待ち望んでいる姿が見られました。

今回の行事は2部構成で行い、第1部は記念式典とし、永年勤続者表彰やわいわいを開設当初よりご利用いただいている利用者の皆さんに感謝状の贈呈を行いました。10年もの間ご利用を続けていただいた事、当事業所で働き続けていただいた事は本当にありがたく、素晴らしいと思えます。これからも「来て良かった。ありがとう」と喜んでいただける施設を職員と作っていききたいと思います。

第2部では、職員が手作りした屋台で、ワンプレートの「カレー・焼きそば・フランクフルト・たこ焼き」のお祭りメニューを提供し、「お祭り感」を体験していただきました。利用者の皆さんは、余興のピアノ演奏動画を視聴しながら「うまかー」と笑顔で食べられていました。食事を終えた後は、リモートビンゴ大会を開催し次々と「ビンゴ!ビンゴ!」「揃ったばい!」と各部署ボルテージが上がり景品があつという間に無くなりました。賞品を受け取ると「コーヒー貰った儲けもんばい」「ラジカセの当たった。嬉しかー」と笑顔で喜ばれており、その笑顔に職員も「また次の企画も頑張ろう!」と思いました。

新型コロナウイルスの感染状況は下火を辿る状況ですが、今回の行事を通じ、たくさんの笑顔と職員間の協力がありとても嬉しく思えました。

(居宅介護支援センター わいわい 在宅サービス課 宮本 稔也)



永年勤続の訪問介護員の皆さん

# タイムス特集

湯布院、ハウステンボス ワッセナーに続き、令和元年度にオープンした熊の川保養所について紹介します。

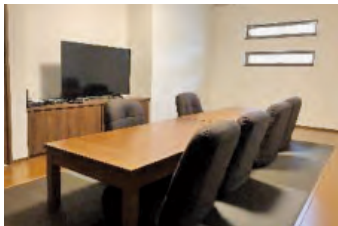
「気軽に立ち寄り湯を」というコンセプトのもとに、嘉瀬川のせせらぎと虫の声に癒される温泉地「熊の川温泉郷」に立地しています。

これまで既存物件を購入した湯布高原別荘（大分県由布市）やハウステンボスワッセナー（長崎県佐世保市）とは異なり、用地の取得整備から建設までその全てをゼロからスタートさせました。既存建屋の解体、嘉瀬川の護岸工事、設計・建築、旅館業の営業許可、温泉利用許可、保健所使用前検査など、構想から竣工まで約4年の歳月を費やしました。

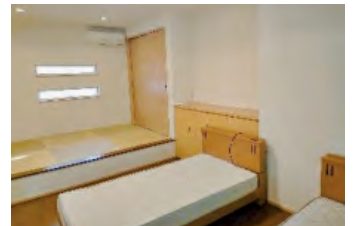
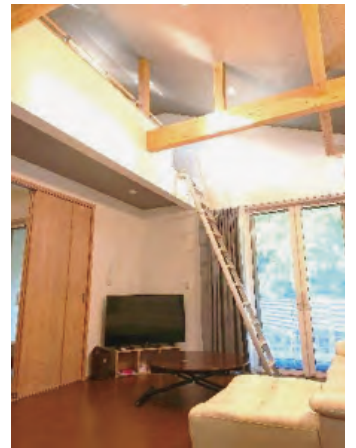
右室・左室の2戸の外観はシンメトリーで、それぞれ12帖のDKと10.8帖の別室。白を基調とした右室はベッドとソファ、黒を基調とした左室はバリアフリーで埋め込み畳の部屋もあります。採光を兼ねたロフトを両室有し、明るく広々とした室内を感じさせます。もちろん温泉を引き込み、内湯は大型浴槽（右室）とイルミネーション付ジェットバス（左室）。露天風呂は滋賀から取り寄せた信楽焼の浴槽で、熊の川温泉郷特有の「ぬる湯」を開放的な気分で味わうことができます。



## 左室（黒）



## 右室（白）

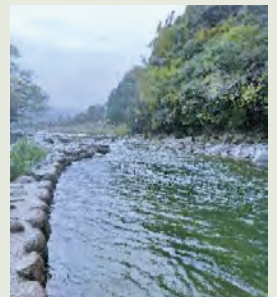


黒を基調とした内装は、シックで落ち着いた時間を味わうことができます。露天風呂は丸型で、温泉と風景を独り占め。バリアフリー仕様になっているので、小さいお子様がいるご家庭でも、ゆったりと過ごすことができます。大人から子どもまで、ご家族で是非どうぞ。

白を基調とした内装は、明るく開放的な雰囲気を演出します。露天風呂は輝くブロンズ白斑点の小判型で、ベッドの部屋には畳の小上がりも設置。お風呂あがりは、ソファでもベッドでも畳でも、そして床暖房のついた床の上でも、好きなところでゴロゴロしてください。

日帰り	9:00 ~ 12:00
	13:00 ~ 17:00
	18:00 ~ 21:00
宿泊	18:00 ~ 翌8:00
	22:00 ~ 翌8:00

保養所の裏にまわると、嘉瀬川親水公園からつながる河川敷に降りることができ、川遊びを堪能することができます。「立ち寄り湯」がコンセプトのため、時間を区切ったの利用ですが、宿泊も可能となっています。夏は緑、秋は紅葉と四季折々の風情を楽しみながら、温泉でゆったりできますので、利用申し込み等、詳細は各施設の保養所担当まで！



# 学園 FOCUS



佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。今回は、からつ医療福祉センターの生活指導員の宮原唯希さんに、アーチェリーについて熱く語っていただきました。

**Q** アーチェリーとはどんな競技ですか？

**A** 弓道と同じように弓と矢を使って標的を狙う射撃競技です。70m先にある直径122cmの的を狙って射ちます。また、的の1番高い点数は10点で約12cm（CD 1枚分）しかありません。アーチェリーの種目は72本射つ予選ラウンド、3本の得点でポイントを取っていく個人戦、3人の選手が2本ずつ射ち合計得点でポイントを取っていく団体戦があり、今年のオリンピックでは男女でペアを組む混合団体戦が新種目として増えました。

**Q** いつからどのようなきっかけで始めましたか？

**A** 高校にアーチェリー部があり、入部してすぐの遠征先が大阪で、顧問の先生に全国に友達ができると言われたことがきっかけです。入学した年のインターハイが佐賀県だったので、高校総体で勝っても負けても全国大会の雰囲気味わえることに心惹かれ、アーチェリー部に入部しました。

**Q** アーチェリーの面白さや魅力はどんなところですか？

**A** アーチェリーは矢が風に流されたり、雨によって狙う位置より下に飛んでいたり、天候に左右される競技です。そのため、風や雨が降っている時は矢にどれくらいの影響があるかを考え、狙う位置を変えて射ちます。考えながら射つのは難しいですが、点数が1番高い10点に矢が飛んで行った時は、とても面白いです。また、冬にはインドアーチェリーという室内で行う競技もあります。インドアーチェリーは18mの距離から縦に並ぶ3つの的を射っていく競技です。アーチェリーは一年中楽しめる所が魅力です。

**Q** 思い出に残っている試合はありますか？

**A** 高校2年生の時に出場した九州総体です。この試合の団体戦準決勝で引き分けになり、シュートオフという1人1本ずつ射って3人の合計得点で勝敗が決まる大事な場面で、私が高い点数を射てずに負けてしまった試合だからです。この試合での悔しさから練習の質を上げ、自主練習の時間を増やし半年後にあった全国高校アーチェリー選抜大会のミックス戦で優勝することができました。今もアーチェリーを続けているきっかけになった試合なので思い出に残っています。



みやはら ゆき  
宮原 唯希 さん

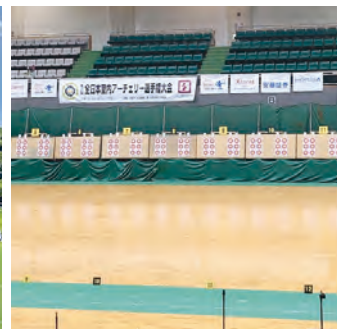
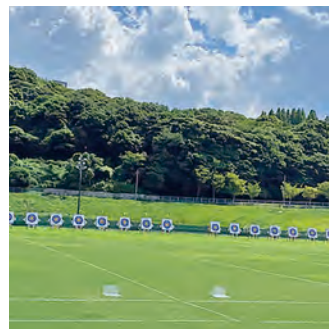
からつ医療福祉センター  
久里双水園入所サービス課  
生活指導員

**Q** 現在の練習量や、仕事をしながら続けるうえで大変なことはありますか？

**A** 試合前の2週間は仕事が終わってから練習場に行き、2時間から3時間ほど毎日練習しています。試合前以外では、週に1、2回練習場に行ったり自宅の縁側に練習スペースを作ったりして、気が済むまで練習しています。初めは学生時代より練習量が減り不安でしたが、短い時間で集中することにより練習の質が上がりました。練習時間が減っても試合で点数など変わることなく今まで通り射ているので、大変だと思うことはありません。

**Q** 最後に、一言！

**A** アーチェリーは、人口が少なくマイナーなスポーツと言われています。しかし、東京オリンピックでは男子団体、個人で銅メダルをとり今ものすごく勢いがあるスポーツです。皆さんもテレビや新聞でアーチェリーを見かけた時は注目して見てください。



# 常務随想

ジャーネーの法則を意識して

秋が深まり、年末が近づく時期になると、よく同年齢の友人たちと交わすのが「1年経つのが早いね。もう、今年もあと1月ばかりになったよ。」の会話です。「歳を取るにつれて、時間の経つのがだんだん早くなるように感じられる」というのは、誰もが口にする紛れもない事実です。驚いたことに、多くの人が、共通して感じているこの感覚を説明するものとして、「ジャーネーの法則」というものがあつたのです。

このことについて、19世紀のフランスの哲学者ポール・ジャーネーが発案し、甥の心理学者ピエール・ジャーネーが「主観的に記憶される年月の長さは、体感的に、年少者にはより長く、年長者にはより短く感じられる」というこのような現象を、心理学的に説明しているのです。

この法則によれば、50歳の人間にとって、1年の長さは人生の50分の1ほどだが、5歳の人間にとっての1年は、人生の5分の1に相当することになります。50歳の人間にとっての10年間は、5歳の人間にとっての1年間にあたります。即ち、生涯のある時期における時間の心理的長さは、年齢に反比例するということです。生きてきた年数によって、一年の相対的な長さがどんどん小さくなることによって、時間が早く感じるというわけです。

このことから得られる教訓は、年を重ねるごとに時間は加速していくのだから、時を無駄にしてはいけません。この法則によれば、人生の折り返し点は、20台の前半と言われているので、残された日々について、1日1日を充実した毎日にするように、努めていく必要があるということです。まさに、古人が教え諭されたように、「少年老い易く学成り難し」なのだからです。  
(常務理事 寺崎 敏光)

# Relay Column



かんざき日の隈寮  
入所サービス課  
生活支援第一係副主任

くろいわ ともき  
**黒岩 友樹**

中学生時代より車が大好きで、免許を取得してすぐに、一番乗りたかった「JZA80スーパ」(マニアックですみません)を購入しました。15年程前、こどもセンターにお勤めだった方の中には覚えのある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。車高が低すぎてバックで駐車場に入る白色のスポーツカーを…そう、はい、私です(笑)。現在は「JZX100チェイサーツアラーV」(言いたいだけ)にかれこれもう、14年間乗っています。車と運転がとても好きで、サーキットでのスポーツ走行をするために、車の整備も学びました。自らメンテナンスを行うことで、更に車に愛着が湧き、他人に触られる事が嫌で板金塗装や音響機器等も自身で行うようになりました。

このような趣味が高じて、現在、利用者支援の仕事に加え、公用車の管理、施設全般の営繕業務、また、行事の時には専門的な音響機器を取り扱っております。趣味から得た知識を活かし、好きな事と兼ね合わせた仕事を持つことでストレスと感じる部分は最小限に留める事ができています。このような環境に感謝しながら、日々精進してこれからも業務に取り組んでいきたいと考えております。皆様も是非、趣味や得意分野を仕事に活かす事を考えてみてはいかがでしょうか。

NEXT…かんざき清流苑のあの人にバトンタッチ!!

令和3年8月～令和3年10月

## 協力ボランティア

- 【こども】 整肢学園友の会様 親和会様
- 【清流苑】 ビハーラ神埼様

## 施設見学来訪

- 【オークス】 嬉野特別支援学校 1名様
- 【から・好・系】 (か) 唐津特別支援学校 36名様 伊万里特別支援学校 8名様 入野小学校 2名様 鷹島小学校様 2名様 (好) 西南学院大学心理学科 6名様 (系) 今津特別支援学校 3名様 可也小学校 1名様 加布里小学校 2名様

## 実習生受入

- 【オークス】 佐賀女子短期大学地域みらい学科 5名
- 【清流苑】 西九州大学社会福祉学科 4名 佐賀女子短期大学地域みらい学科 3名
- 【から・好・系】 (か) 西九州大学看護学科 16名 西九州大学社会福祉学科 2名 西九州大学短期大学部地域生活支援学科 3名 佐賀女子短期大学地域みらい学科 2名 筑紫女学園大学人間科学科 1名 中村学園大学短期大学部幼児保育学科 1名 熊本保健科学大学リハビリテーション学科 1名 唐津看護専門学校 41名
- 【日の隈】 西九州大学社会福祉学科 1名

# 見どころ

暖かく過ごしやすい日が続いていましたが、最近はずっと寒くなり冬が近づいていると感じます。さて、今回の学園タイムスは熊の川保養所を特集しています！これからの季節にぴったりの温泉がある保養所になりますので、ぜひご一読いただければと思います。今年にはコロナウイルスに加え、インフルエンザも流行しそうとのことなのでみなさん身も心も元気に頑張りましょう!!

